

平成19年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	グローバリゼーション時代におけるガバナンスの変容に関する比較研究	研究代表者名	山口 二郎
-------	----------------------------------	--------	-------

※該当箇所（ ）に○等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア（ ） 予定以上に達成した
- イ（○） 概ね予定どおり達成した
- ウ（ ） 一部不十分である
- エ（ ） 達成していない

意見：  
グローバル化の進展に伴う政治の変容、対応の多様性を総論的、各論的に明らかにすると目的はそれなりに成果をあげたと評価できる。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア（ ） 十分に貢献できた
- イ（○） 概ね貢献できた
- ウ（ ） 一部貢献できた
- エ（ ） 貢献できていない

意見：  
成果は分野によってばらつきがある。福祉・雇用ガバナンスに関する研究は国際的な比較研究の中に日本の事例を位置付けつつ、高い成果をあげたと言える。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア（ ） 非常に高く評価できる
- イ（○） 概ね高く評価できる
- ウ（ ） 一部高く評価できる
- エ（ ） 高く評価できない

意見：  
個別の研究は概ね高く評価できる。しかし、研究の総括についてはなお努力の必要がある。またソーシャル・ガバナンス論に関わる研究成果が不十分と判断される。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア ( ) 非常に高く評価できる
- イ (○) 概ね高く評価できる
- ウ ( ) 一部高く評価できる
- エ ( ) 高く評価できない

意見：  
日本語での研究成果公開は大に行われている。しかし、国際的発信ということでは海外のトップ・ジャーナルにおける論文発表がない。

#### 4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A+	期待以上の進展があった
○	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

グローバル化の進展する中でのガバナンスの変容を大きな枠組みとして共同研究を行うという試みはそれなりに成果を挙げたと評価できる。特に福祉・雇用ガバナンス、グローバル・ガバナンス、ローカル・ガバナンスの分野等においては注目すべき研究成果を挙げている。しかし、研究成果には研究者、研究対象においてかなりのばらつきが見られ、また海外のトップ・ジャーナルにおける論文発表がないなど、いくつか課題も残している。